

目次

□巻頭言 海洋開発と機械化……………木内政鋭/1  
 海洋開発用作業船の動向……………石田 實/3  
 海上作業台“かいよう”による海底地質調査……………松村喜美/6  
 自揚式水上作業台“せと”による  
     沈埋トンネル工事……………矢村家利/12  
 小形潜水船“はくよう”による海底作業……………荒木浅吉/18  
 津軽海峡におけるケーブル布設のための  
     海底地質調査方法……………中西信彰/23  
 水中ブルドーザによる浚渫工事……………吉沢平治/27  
 空気中と水中における水力掘削特性の比較……………岩田尚生/31  
 海図作成システムについて……………清水良次/36  
 □随想 うつりかわり……………河野正吉/40  
 扇島埋立工事の計画概要……………斎藤公彰/42  
 鹿島港地下水低下工法による陸上掘削工事……………運輸省鹿島港工事事務所/52

グラビヤ—掘込港湾

名古屋港金城ふ頭のサンドドレーン工事……………大島義盛/61  
 仙台空港滑走路建設工事の概要……………斎藤久光/67  
 秋田港大浜地区の掘込港湾工事……………勝部弘/73  
 利根川河口堰建設事業(その3)—施工実績(2)……………君塚昂/81

□建設機械化講座 第103回

現場フォアマンのための土木と施工法

XVII. 建設機械概説

2. トラクタ系建設機械(その3)……………高橋九郎/89

□研究所巡り

運輸省船舶技術研究所……………高井照治/94  
 運輸省港湾技術研究所……………白浜正芳/97

□文献調査

文献目録紹介……………広報部会文献調査委員会/100

ニューズ……………(編集部)/104  
 行事一覧……………/105  
 編集後記……………(柴田・高木)/106

◀表紙写真説明▶

三井自揚式海上作業台  
MSEP-1 せと

三井造船株式会社

本機は、海洋土木工事の増加に対処すべく当社鉄構運搬機事業部が開発した大形自揚式作業台であり、ジャッキアップ装置にテーパリング把握機構と圧力筒を組合わせたものを採用し、大荷重を楔によって把握力に変えるというユニークなものである。

なお本機は北九州洞海湾で全長1,400mの海底沈埋トンネルの布設工事に使用され、所期の性能をフルに発揮した。本工事終了後は本四連絡橋等の海洋調査に活躍することが期待されている。

主 要 目

- 作業台：長さ 60m×幅 30m×深さ 3m
- 支柱：外径 1.8m×長さ 50m×4本
- ジャッキアップ装置：三井テーパリング把握式ジャッキ4組
- 最大推力 400t×4
- トラベラ：2基
- 動力装置：三井ドイツディーゼル機関4台